

## 様式第3号（第13条関係）

## 会議録

会議の名称	令和7年度第2回朝霞第一中学校学校運営協議会	
開催日時	令和7年11月20日（木）午後3時40分～午後5時00分	
開催場所	朝霞市立朝霞第一中学校2階特別活動室 朝霞市大字膝折2-31	
出席者の職・氏名	学校運営協議会委員 出席者8名 委員長 井上 典子 委員 渡邊 聡 委員 前田 敏 委員 高橋 正明 委員 小手森 喜弘 委員 比留間 進一 委員 塚田 薫 委員 唐松 善人 事務局 出席者2名 教頭 横山 三楽 事務 小野寺 俊哉	
欠席者の職・氏名	学校運営協議会委員 欠席者2名 副委員長 鈴木 泰代 委員 隅田 浩文 事務局 欠席者2名 石井 祐輔 伊藤 眞裕美	
議題	・本日の授業について意見交換 ・最近の教育活動について ・全国および埼玉県学力・学習状況調査の結果と考察 ・協議・熟議・懇談	
会議資料	・第2回次第 ・校長室だより ・令和7年度埼玉県地域学校協働活動実践発表会における「実践発表動画」の配信について ・地域で子供を育てる意識の向上に向けた「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取組」の推進研究計画書	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 学校運営協議委員による確認	
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項	特記事項なし	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（１）開会の言葉（教頭）

（２）あいさつ（校長）

（３）協 議

- ・ 本日の授業について意見交換
- ・ 『最近の教育活動について』説明する
- ・ 『全国および埼玉県学力・学習状況調査の結果と考察』について説明する
- ・ 協議・熟議・懇談
  - 今日たまたま、入っていた臨海セミナーのチラシを見ても思うことだが、「点数を取れるのが良い」と思ってしまう保護者も多いのが懸念である。点数が取れることも重要だが、同時に見方、考え方を養いたい。
  - ものの考え方として、いくつかの解法が存在することを気付かせるのが大切、大事である。複数のものの見方を身に着けさせたい。
  - 学力を上げるということは、受験対策もあるだろうが、学年に応じたモチベーションを上げ、３年生でMaxにもっていく必要がある。そういう意味で、学力が多少足りなくても、良い学校に進学している例は多い。様々な外部機関の力を取り入れていくのが大切である。また、将来のイメージを沢山持たせてあげる。
  - 特にキャリア教育では、具体的な将来のモデルとなるイメージを持たせたい。今日行わせてもらった授業でも、具体的なイメージを持てるお話をさせてもらった。
  - 学力向上のために生徒に何をさせるかが大切。やり切ったという経験と何が足りなかったのかと考えさせる機会を与える。
  - できないとすぐ諦める子、100か0で考えてしまう子が増加しているように思う。YouTubeでもすぐ飛ばしてしまう。また、スマホが止められない、依存しているように見える。友人との交流もオンラインとなっている。勉強中も携帯から離れられない。この状況に困っている家庭もあれば、気にしない家庭もある。とにかく、諦めずに最後までやり切る。そういった働きかけをお願いしたい。
  - 不登校の状況はどうか。現在、学校に行くだけがすべてではないという風潮、考え方にシフトしてきている。様々な居場所が確保され始め、学校以外の選択肢も増加した。昨年、今年と不登校児童生徒数が最大となり文部科学省でも話題になっているが、今、懸念されるのは、安きに流れる傾向がある。本当はやればできるのに、あえて通信制高校への進学を選ぶ。学校に行ける子も通信制を選ぶ。あれもこれもやる必要がない、自分の好きなことだけ、必要な単位数だけ取ればよい。その結果、社会に出たときに通用しない。人との関わりが苦手、我慢ができない、コミュニケーション能力が低いままとなっている。全ての通信制高校がそうとは言わないが、潜在的に見て、そういった傾向の子が数万人いると考えられる。
  - 一中は手厚く対応している、子どもたちを大事にしている学校であると思う。児童生徒たちとどう関わってあげるかが大切である。どこで見取ってあげるか。中学の時の失敗から今に繋がるのが良い。

- 一中は、子どもたちも先生も目が良い。
- スマホとどのように付き合わせるか。第三者から言われるとスッと納得できる時がある。
- 学び合い、一緒に学ぶ姿が良い。良く教え合っていた。それが生活に結び付くとさらに良い。例えば三角関数を、学校生活で頑張っているソフトテニスの戦略に生かすなど、ただ学んだではなく、それが実生活で役立つようにしてあげる。大学の考え方も、その様にシフトしてきている。振り返りの時間で、その視点に繋げてあげる。よって振り返りの時間の工夫が大切である。学校がそのように変化していけば、塾は必要なくなる。
- 例えば職業調べや上級学校調べでは、今や検索する、チャットGPTに聞いてみれば瞬時に終了する。AIやICTでは調べられないことを書かせるのはどうか。実際に見て聞いて、実体験したことをまとめさせる。その方がレポートに厚みが出るだろう。
- 学級文庫ももっと意図的に紹介してはどうか。現在市立図書館と連携したデータベースがあるはずである。
- 子どもたちは、教師の一言で、大きく動く！

(4) 今後の予定

- ・令和7年度第3回学校運営協議会  
2月 5日(木)頃 午前9時40分(2限授業見学)を予定
- ・令和7年度第4回学校運営協議会  
3月27日(金)頃 午後3時30分を予定